

RPSJ NETWORK

Railway Preservation Society of Japan

日本鉄道保存協会 会報
1996 JULY 第2号

日本鉄道保存協会設立5周年記念 歴史的動態保存車両写真展を好評開催

P1-1 交通博物館写真

展示会場（交通博物館）

昨年の総会で、協会設立5周年を記念して、保存協会の加盟団体が保存している歴史的車両の写真展を開催することが決定し、去る5月14日～7月7日、東京・神田須田町の交通博物館で写真展をおこないました。

加盟19団体から1～3点の写真計33点と、日本鉄道写真作家協会のご協力でお出展いただいた作品10点、さらにその他の保存鉄道として東日本旅客鉄道株式会社より2点、及び海外の保存鉄道より8点の合計53点の盛大な写真展となりました。

また、東京での写真展に先立ち、去る2月10日より3月10日まで、滋賀県長浜市の旧駅舎鉄道資料館でも開催し、長浜名物の盆梅展と時期が重なり、こちらの写真展も大盛況でした。

引き続き、9月10日（火）～29日（日）まで大阪・弁天町の交通科学館で開催を予定しています。

P1-2 長濱駅駅舎写真

長浜旧駅舎

大井川鉄道株式会社

白井 昭

◎缶水軟化装置は新金谷基地のみにあったが、今回千頭駅にも設置して4月より使用中である。

この水は貴重品なのでSL ボイラ専用とし、洗車などには使用を禁止している。

◎今までベトナム炭などによる練炭をSL用に使っていたが、4月よりオーストラリアのエンシャム無煙炭を併用してテスト中である。

点火性・堅さ・粘り・火の粉の飛散などについて、いまのところ好成績である。

◎マスコミは今までは機関士の苦勞や養成など外見的事の報道が多かったが、昨年からの保存の基本である保守の仕事や技術についての報道が多くなった。……ひとつの時代の進歩と言えよう。

◎本年から冬もSL列車を毎日運転することになった。SLの煙は白煙が本当で黒煙は間違いであり、この点、冬のSLはカメラマンにとって朗報である。また、お座敷客車の連結やイベントも増えるであろう。

◎本年の春は多客のため毎日2～3本のSL列車が走る日が多く、SL列車同士のすれ違いが多く見られた。昔は、いつでもどこでも蒸気列車がすれ違ったものであるが、久しぶりに古き良き時代の旅の情緒を味わうことが出来た。

P2-1 大井川写真

昔なつかしいSL列車のすれ違い。SLは毎日変わり4月25日はC11同士でした。 撮影・白井 昭

なつかしの尾小屋鉄道を守る会

軽便尾小屋鉄道の最初の敷設計画について

副会長 下中庄三郎

明治・大正の初期、鉱石資材運搬輸送に当時は、馬車200台で毎日尾小屋・小松間を一往復しておりました。大正5年に鉄道化されることに決まり、尾小屋を起点として小松方面に向けてレール敷設を開始したのですが、途中西大野からの敷設方向に2案が出て来たので中断されました。

この2案というのは、大野から五国寺、正蓮寺を経て軽海に出たあとは、後日の北鉄鵜川涌泉寺線と同コースで小松に至る案と、大野から花坂峠を上り、吉竹を経て小松に至る案です。

そこでとりあえず尾小屋・大野間10.5キロは鉄道、大野・小松間6.3キロは馬車輸送とすることとなり、大野にて鉱石を積み換えしておりました。

結局、後案に決定し、敷設工事が再開され、吉竹の墓地付近で土地の買収が難航し小松を目前にして再度馬車輸送を余儀なくされるということもありましたが、大正8年11月26日全長16.8キロが開通しました。

なお、尾小屋駅構内より鉱山までは、10台程の馬車で運んでいました。

その後、鉄道輸送も昭和30年頃をピークに、次第に道路整備されるに伴い自動車輸送に主力の座を奪われ、昭和53年3月19日、全国でも珍しいその名も軽便鉄道最後のものともいえる尾小屋鉄道の廃止となりました。

P2-2 尾小屋鉄道写真

ディーゼル機関車DC121とホハフ3

財団法人日本ナショナルトラスト

今年も6月にトラストトレインのC12型164号蒸気機関車の定期整備工事をおこないました。今回は主蒸気管が腐食していたので、その修理に予想外の費用がかかりました。C12型164号蒸気機関車も昭和12年製のため、あちこちに故障部分が出てきており、その都度対処しているという状況です。

客車についても同様で、特に車内のシートやカーテンに老朽化が目立っています。シートについては、3月末にボランティアによる座席シートのクリーニングを特殊な機械を使用しておこなったため、たいへんきれいになりましたが、スハフ43型客車2両のカーテンについては、全面的な取り替えが必要なほど傷みが進んでしまいました。

そこで今回、カーテン取り替えのために募金を広く皆様に募っています。1枚3万円で限定78口を募集中です。募金された方は、記念に車内にお名前を刻みます。皆様の暖かいご協力をお待ちしています。

財団法人日本ナショナルトラスト 事務局
〒100 東京都千代田区丸の内 2-4-1 丸ビル 414号
☎ 03-3214-2631 FAX 03-3214-2633
郵便振替 口座番号：00120-2-106140
加入者名：財団法人日本ナショナルトラスト

P3-1 走り写真

新緑の中を走るトラストトレイン (写真提供 白川 淳)

P3-2 車内写真

スハフ43型客車内部

北海道鉄道文化協議会

ありがとう「C62 ニセコ」また会う日まで

事務局 青木真美子

創立以来9年間にわたる活動を終え、北海道鉄道文化協議会は、去る3月31日、解散しました。

長きにわたる皆様の御支援に対し、心から感謝致します。この間「C62 ニセコ」の運行を通して鉄道文化財のあり方を社会に提示し、その理念を訴えてまいりましたが、一応、当初の目標といえる8年間の運行を無事故のうちに完遂したとはいえ、社会に定着させられずに運行を休止することになったのは、断腸の思いです。

しかし、私達の理念を社会に残すべく編纂を続けてきた「C62 3・軌跡」が完成し、いつの日かの復活の礎石となることと確信しております。本書は日本で初めて1両の機関車の履歴を本にしたものです。発売前から約1,500部の予約が入り、すでに各界から高い評価を得ており、残部も少なくなっております。お早めにお申し込み下さい。「C62 3・軌跡」

大型の写真と未公開の国鉄資料を盛り込んだA4判約300頁、定価3,800円で発売中です。購入についての問い合わせは出版元〔(株)須田製版 TEL011-621-0275〕までお願い申し上げます。

P3-3 軌跡表紙

P4-1 会場風景

家族連れでも賑わう写真展会場

写真展共同開催の交通博物館・普及課長の小澤和彦氏に感想をうかがいました。

写真展の見学者も年齢等により、その想いも違い、年輩の人には懐かしく、若い人には珍しく、と感想もさまざまですが、両者に共通するものは、今後ともこの鉄道文化財の動態保存を存続し続けてほしいという願望だと思います。

ここに展示した写真の歴史的車両は、今となっては過去の遺物のため、その技術はもとより文化までもが消滅の運命にあり、産業として再び復活することは無いかも知れませんが、これらの歴史的車両の動態保存の存続が、唯一の文化継承であると思います。

今回の写真展は、保存協会加盟団体の動態保存車両の写真を一堂に集め、全国的に網羅し展示したことに大きな意味があるのではないのでしょうか。

この写真展の開催により、鉄道文化財に対するさらなる理解、啓蒙が図られることを確信しています。

いんぷおめいしょん

平成 8 年度総会日程決まる！

毎年 1 回、加盟団体の情報交換と親睦を深めるために開催している、総会の日程が決定しました。

今年は、埼玉県宮代町にある日本工業大学で開催されます。同大学では、2100 形 2109 号機蒸気機関車（通称 B 6）を保存しています。また、貴重な産業遺産としての機械などを展示した、工業技術博物館もあります。

総会には、毎回、約 30 名前後の参加者があり、パネルディスカッション形式でおこなわれる意見交換会では、時間が足りなくなるほど熱心な討議が交わされており、また、宿での懇親会も和気あいの雰囲気です。多数の皆さまのご参加をお待ちしています。詳しいことは、詳細が決まり次第ご案内いたします。

開催日 平成 8 年 8 月 30 日（金）～ 31 日（土）

場 所 日本工業大学（埼玉県宮代町）

訃 報

「なつかしの尾小屋鉄道を守る会」会長の金沢工業高等専門学校・村田外喜男先生が 6 月 5 日、肝臓疾患のためご逝去されました。

昨年の総会の際には、炎天下の中、ご自身で製作されたミニ SL・C11 型蒸気機関車を汗だくになって何度も動かしてくださったお姿がとても印象に残っています。

こころよりご冥福をお祈り申し上げます。

新加盟団体と退会団体について

平成 8 年度に入って、当協会へ新しく鹿児島県屋久島の屋久町と東日本鉄道文化財団が加盟いたしました。

屋久町は、昨年の総会の際に個人会員として参加されていた、屋久町役場の上山氏の後を受けて加盟したものです。また、東日本鉄道文化財団は、同社内の土木・建築等を広く文化財として保存・活用することを目的に活動しています。

なお、平成 5 年度から加盟していた北海道鉄道文化協議会が、C62 型蒸気機関車の営業運転が終了したため、事実上解散となり退会をしました。

P4-2 村田先生写真

ありし日の村田外喜男先生